

## 2021年度 学校評価報告書

### 1. 第Ⅲ期中期経営戦略における本園のビジョン

○個々の園児の成長を確かな形で保護者が実感することのできる魅力あふれる教育・保育を行うこども園

### 2. 第Ⅲ期中期経営戦略の中期計画に係る2021年度の成果

#### 1) 「遊び」を通じた新たな教育保育の展開

子どもたちの自信や自己肯定感を高め、非認知能力の向上に資するように、園生活の中では発達段階に応じた形で子どもたちの主体性を尊重することを重視してきた。子どもたちが複数の遊びの中から主体的に好きなものを選んで遊び始めるように、保育室をゾーニングする「コーナー保育」にも取り組み、子どもたちの遊びの質を高めることができた。

また、ICTについては、子どもたちが主体的に考え行動するきっかけとして効果的に活用し、表現力や発表力、他者とのコミュニケーション力を高めることにもつなげることができた。

#### 2) 積極的な情報公開の推進

新型コロナウイルス感染拡大により、保護者の来園機会が大幅に減り、子どもたちの園でのようすをお伝えすることが容易なことではなくなった。本園ではいち早く導入したオリジナル動画配信システムのライブ配信機能を利用し、主な行事についてライブ配信と事後のオンデマンド配信を行った。また、HP上に保護者専用のページを設け、学年ごとの週のようすを継続的にアップした。

志願者層に対しては、園の雰囲気を理解いただけるように、HPに園のできごとを定期的に掲載するとともに、地域の未就園児および保護者を対象とした子育て支援事業や一時預かり事業に取り組むことにより、園の特長の発信にも努めた。

### 3. 課題について

2021年度も新型コロナの拡大による緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の発令に伴う家庭保育への協力を要請することがあった。それら期間中は感染拡大防止に努めたこと、カリキュラムの進捗に差がつかないように自由保育を中心に運営したことにより、中止せざるを得ない行事等があった。これにより子どもたちの体験の機会、および保護者のみなさまに保育のようすをご覧いただく機会が減少してしまったことが課題として挙げられる。

今後、感染状況の推移について見通すことが困難であることに変わりはないが、できる限り柔軟に、実施可能な時期を見計らって行う、オンラインでの配信に切り替えてご覧いただくなど、工夫して対応していくこととしたい。

### 4. コロナ対応および安全な保育環境の維持について

行事等の実施に際しては、常に感染状況を注視しながら、回数の増加、人数の制限、時間の短縮等の工夫をして行った。人数制限の関係でご来園いただくことができなかつたご家族の方々に対しては、動画配信システムを活用しライブおよびオンデマンドでの配信を行った。

また、これまで換気設備の更新をはじめさまざまな機器を活用してきたが、2021年度は新たに高速非接触型体温計やCO2濃度測定器を導入し、より安全な保育環境の維持に努めた。

## 5. 学校評価アンケート結果について

本園では毎年度保護者に対してアンケートを実施している。2021年度の保護者満足度（保護者推薦度）は96.9%と前年度に続き高水準を維持することができた。

また、個別の質問項目についても、25項目中23項目について95%以上の回答者から、2項目については90%以上の回答者から、それぞれ高い肯定的な評価をいただくことができた。

2021年度からアンケートの回答方法をオンラインに移行したことにより回答率の低下が見られたため、より多くの方にご協力いただけるよう工夫が必要である。

## 6. 学校関係者評価委員会からの意見について

学校関係者評価委員会からいただいた意見は以下のとおりである。なお、改善が必要な内容についてはすでに対応している。

- ①園運営全般および日ごろの教育保育に関して、子どもたちのために細やかな配慮がなされており感謝している。
- ②2021年度に新たに導入された園バス利用者用のアプリである「バスノリ」は、園バスの運行状況やバス停到着通知などがあり、たいへん便利で重宝している。
- ③オリジナル動画配信システム「おうちえん」での動画配信の頻度を増やしてほしい。緊急事態宣言発令時に家庭保育に協力する場合、追幼だよりの「保育のねらい」を参考にしているが、動画で幼稚園での過ごし方が分かればありがたい。特に歌などみんなについていけるかという不安が解消されると思う。
- ④気象警報発令時の決まりはあるが、全員の方が理解されているとも限らないようで、休園と知らずバスを待っておられたという話を聞いた。保護者連絡アプリ「イロドリック」での一斉通知など検討いただければありがたい。

## 7. 総括

本園では、先行きが見通しにくいこれからの時代を、主体性をもって強くしなやかに生きていけるよう、就学前の子どもたちの育ちを支援している。2021年度においても、日常保育やさまざまな行事を通じて、子どもたちの興味や関心を広げ、子どもたちが自分の頭で考え、選んで、決めて、そして最後までやり遂げる機会を多く設け、自信や自己肯定感を育む教育保育に取り組むことができた。

2021年度は、近い将来に着手する園庭改革の先行事例調査のために、また自園の教育保育を客観的に見つめ直すために、他園の視察を精力的に行い、自園の良さや課題を教職員の共通認識とすることに注力し、コーナー保育の実践など日常保育の一部改善にもつなげた。

直近の約2年間は新型コロナウイルス感染拡大という未曾有の事態に見舞われたが、教職員の懸命の努力により1日も休園することなく保育の提供を続けることができた。さまざまな制約がある状況のもと、子どもたちのためにできることを模索し続け、学年ごとあるいはクラスごとに細分化した行事の実施、オリジナル動画配信システムや電子図書館の早期導入、オンライン遠足の実施、併設の小学校、中・高等学校、大学等との各種連携事業の実施など、でき得る限り子どもたちの育ちを支援することに努めた。

以上